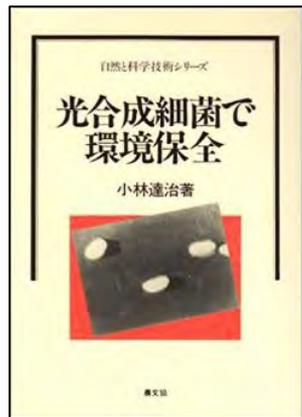


(1) 農家との微生物農法を実践する勉強会

ゆたか
饒 かな土は楽しみの極み



現在会員数15名、利用農家 約40名
“微生物農法普及”を正しく理解し
“じゅんかん育ち”普及を目的とする。
小林達治博士(故人)の光合成細菌の著書を
バイブルとして研修。
後継者(若者)も関心を深めている。



故小林博士と自宅にて
(2009.7)

汚泥発酵肥料
アキポスト
生産～販売

コミュニ
ケーション

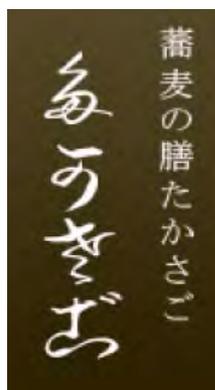
信 頼

肥料利用農家
農作物
生産～販売



(2) 儲かる農業・差別化による強みのある農業

① ソバ栽培（東京の有名ソバ店へ全量提供することで安定収入を図る）



協力：蕎麦の膳たかさご

東京都新宿区中町(牛込神楽坂)

講師：宮澤佳穂先生(三代目たかさご当主)とそば打ちメンバー(NHKのソバ教室)

- 有機栽培に近い栽培方法！
- この地域のソバを根付かせたい
- ホテルオークラの料理に提供

“十割手打ち蕎麦”講習会(石川そば生産組合)



道の駅みねはま～”産直 おらほの館”で販売される柴田氏の石川そば

② 枝豆栽培（青果問屋と直接契約～美味しい枝豆が信頼性を増す）

J Aの場合：競りによる価格（2019年）

1 kg当たり 200円(安値)～800円(高値)

青果問屋の場合：固定買取価格 (有利販売)

1 kg当たり 600円～700円



「あきたほのか」
出荷時に「秋田の選りすぐりの豆～酒肴豆（しゅこうまめ）ブランド名で、東京の市場へ届けられる。」

③ 大根栽培（化学肥料と比較して安価なアキポスト～生産コストの低減）



現在施肥は、アキポスト 400kg/10aと 化学肥料 20kg /10a 散布

費用面で 6,000円(アキポスト)+5,600円(化学肥料～大根専用)

$$= 11,600円/10a$$

約 2.4倍

5,600円



全量を化学肥料とした場合、100kg/10a 施肥する。

費用面で

$$28,000円/10a$$

④ 連作障害対策 ほうれん草「立ち枯れ病」ビニール被覆太陽熱殺菌

太陽熱による殺菌方

アキポスト施肥後に散水、透明ビニールシート被覆
シート内部60℃ 夏場に1～2週間被覆

○費用 アキポスト 600Kg : 9,000円/回
シート : 0.05mm²リ製 : 750円/回 } **9,750円/回**



クロルピクリン剤の散布

ハウス1棟(70坪)～薬剤10ℓ
○費用 1.5万円/回



65%
down



次作以降の連作障害の再発～ほぼ無い
土壤環境が改善～生育良好(有益微生物が守られる)

次作の連作障害には有効
2～3作目から障害発生
立ち枯れ病菌が耐性を持つ
土壤環境に悪影響～土が痩せる

(3) アキポスト（汚泥発酵肥料）普及の課題

課題 有機質肥料は化学肥料と比べて散布に手間がかかる。散布期間も短く人手が必要。

① 汚泥発酵肥料のハンドリングとコスト



アキポストの性状(フルイ分け品)

汚泥発酵肥料
不必要な加工しない
フルイ分程度の製品

- 販売価格を廉価
- 利用範囲を拡大

径3～5mm
球状



粒状化製品

径5～8mm
長10～20mm



ペレット化製品

対策として、造粒化・ペレット化？

- 造粒化装置は高価、製造工程が増えコスト高 ～ コンポスト製品価格が高くなる

② 汚泥発酵肥料の施肥作業への支援

- 規模の大きい農家は専用機(マニアプレッダ-等)を持つが散布する期間(春・秋)が短い
散布専用機と人員を配置した機関(農業公社等)からの支援があれば利用が拡大する



農地へフレコンの運搬



積込作業(ライムソア)



散布期間：春(4～5月)・秋(9～10月)

散布作業(ライムソア)

ご清聴ありがとうございました